

令和5年度 大阪府高等学校就職問題検討会議 議事要旨

令和6年2月22日（木）

【議題1】 事務局から資料に基づき説明

【議題2】 事務局から資料に基づき説明

【議題3】 事務局から資料に基づき説明

【議題4】

1 事務局説明

(1) 全国版「高等学校就職問題検討会議」の結果について。

(2) 令和5年度は、令和5年9月16日の選考開始日以降1人2社まで複数応募可能としたが、

- ・生徒の応募動向や求人動向に目立った変化は見られず、特段の混乱も出ていないこと。
- ・就職内定率は昨年同期から上昇しており、順調に推移していること。
- ・複数応募の開始時期を令和4年度に変更したところであり、検証期間がまだ短いこと。

以上を踏まえ、令和6年度について、「今年度と同様の取扱い」を提案。

2 意見交換

(構成員) 資料4の事業主への周知文について、高卒求人を初めて行う企業にはわかりにくいのではないかと。

今後、生産年齢人口は減少していく中で、さらに高卒求人をを行う企業が増えていくことが予想されるので、周知文をわかりやすくできないかと。

(事務局) 高卒求人を提出する企業へ向けて、高卒求人取扱いに関する説明動画を作成しているのと併せて、初めて高卒求人を提出する企業に対しては、ハローワークの窓口で対面の説明も行っている。

今後もより分かりやすい説明を企業に対して行えるよう改善を図っていきたい。

(構成員) 初めて高卒求人を出す企業がハローワークで対面説明を受けられることを資料4の事業主への周知文に一言入れていただけると良いと思う。

(事務局) ご指摘いただいた点は追記対応させていただく。

(構成員) 政府が人への投資で大規模な予算を措置している。資料2の9ページにあるハローワークによる新規高卒者に対する支援についての予算は増えているのかお聞きしたい。

(事務局) 厚生労働省のホームページ公表内容になるが、「新規学卒者等への支援の充実」について、高校と大学で切り分けるのは困難だが、学卒全体では令和5年度概算要求額90億円計上しており、令和4年度予算額とは同額である。

(構成員) 新規で高卒求人を検討する中小企業にとって指定校求人を出すのはハードルが高く、公開求人を選択する企業が増えるのではないか。そうなるのと複数応募できる数を増やすなどの検討が今後必要になってくるかもしれない。

(構成員) キャリア形成の自律は、安定的な職業生活を過ごすために重要な事項。高校やその前段階の中学の段階でのキャリア教育はその基礎となるため非常に重要。ただ、現状のキャリア教育は、就職の準備について重きを置くもので、本来は自分自身が将来どういったキャリアを築いていきたいかをしっかり考えられるような教育が必要となってくる。政策的には、次年度の指定校求人や複数応募などの短期的な検討とは別に、キャリア形成の自律が求められていく中で、指定校求人などの現在の就職慣行やキャリア教育のあり方が今後の時代の流れの変化に合っているのかの検証も中期的に行っていく必要が出てくると思われる。

(構成員) 高校でもキャリア教育は行っている。高校の教員が中学校を訪問し、就職や高校進学を含めたキャリア形成のための講義をここ数年行っており、現場としては子供たちへのキャリア教育を進めている状況。

(構成員) この会議で出た意見等の中期的な課題も含めて今後の方向性を検討していただきたい。

(構成員) 現場では多様な取り組みに対応するため、現状キャリア教育のプログラムに多くの時間を割いて取り組めない。

(構成員) 技術系の人材が減っている中、実務系の学校の希望者が減っていることは今後の大きな課題。

3 まとめ (座長)

「令和6年度における複数応募・推薦の取扱い」について、事務局案にハローワークへの相談を勧奨する文言を追記する。

(⇒ 構成員一同 異議なし)

【議題5】 その他

(民間職業紹介事業者の活用等について事務局から関連資料に基づき説明)